（昭和七年六月十五日第三種郵便物認可）　昭和十年九月十七日　JYOBAN SHIMBUN　【火曜日】第三百三十六號（一）

日刊

小名濱

發行所　新潟縣西蒲原郡南平野町
九五　電話
發行人　伊藤勝治
編輯人　小名濱町
一港吉

九月十六日夕刊

一ヶ月　三十錢
一部　二錢
廣告料　一行五十錢
場所指定　十錢增
日曜祭日翌日休刊

榮冠を目指して
政戰今や激し
言論戰白熱化
候補者出揃ふ

選擧肅正徹底の聲のなかに本郡縣會議員立候補者數は應援の演說會が催され選擧政友派四名民政派三名養正派一名合計八名で實戰に入り定員六名を爭ふ、政戰今の一戰は明春の衆議院選擧やたけなはにして政民兩政黨は必勝を期して各事務所は秘策を練り、文書戰となつてゐる。言論戰に移つて都市或は農山村の各地、政見發表の演說會が催され選擧政友派四名民政派三名養正期日の切迫と共に日を追ふて刻々白熱化して行く、こ

千數百圓入りの折鞄
郡山驛で拐取
犯人平驛前で捕はる

人々さへ船員の通るたびに見られた、港内波隱やかにして淀泊船は右から大黑丸海區にて魚群多數を發見、久慈谷崎の東南五十八浬、

とれた
かつを
一萬五千本

今朝三崎昭洋丸は小名濱東北方四十二粁の處で經二三〇〇本と、金華山東北方四百五〇浬で經三千五百本を獲て入港したるも小名濱廻航水揚げする筈、今朝は經船四艘一時に入港して思はぬ雜沓した。

奇蹟!!
漂流傳馬船
無事生還
九死一生の志賀幸三郎氏

小名濱町古港一五九番地志賀幸三郎(三九)は一昨日朝に人乘傳馬船二隻と共に一人乘りで小名濱沖へ航行、折からの烈風に煽られ、三隻共に吹き飛ばされ、何處へ行つたか夕方になつても歸つて來ないので直ちに、スヤ及高橋大敗事務所の船、探索に出かけたが見つからず引あげた。此の夜烈風に變へて雨が降り氣づかはれた傳馬船も絶望の境に見はなされた、

昨朝茨城縣魚瀨港、鶴ヶ壁角旗」をもつて示す
今橋長太郎の兩名が同港沖白—北の風　綠—東の風　時々曇
の烈風に煽られ、三隻　白青—晴時々雨　青—西の風　白綠—
だと云ふ、命に惠まれる　建物價額　一〇三、八三六圓　赤白—晴時々雪　赤白—
人である、同家は母一人、　其ノ他　——　赤綠—北東の風　赤綠—南東の風
妻子四人の六人家内、裕福　計　一八六、八三〇圓　赤青—南西の風
な暮の惠まれた家である。

魚瀨海岸沖まで行つた、堅固な體の特主で實に驚くに

全國天氣豫報
信號改正さる（二）
小名濱測候所では九月一日より實施

◎風向の旗は前述通り「三

號で示す場合には次の樣な色燈を用ひる
(白)ハレ　(橙)曇
(藍)雨　(綠)雪
之等を上下に二つ重ねた場合は上の方が先に起る天氣を示し、下の方が後に起る天氣を表はす、例へば
(白)—(橙)晴後曇
(橙)—(藍)曇後雨
地方氣象特報は、強風、風雨、大雨、風雪、大雪、凍害、高潮、出水と云ふ樣な特別に注意を要する事柄が

◎天氣の旗は長方形で示す地方天氣豫報を夜間にも信

町有財産
基本財産と積立金
（昭和十年三月末日現在）

種別	現在高
町基本財産	一、〇九二圓
小學校基本金	二一、〇二五圓
救荒豫備金	一、七二〇圓
役場吏員奬勵基金	三八一圓
小學校教員奬勵基金	一、四九七圓
合計	二五、七一八圓
右の種別	
預金	運用金
五九二圓	五〇〇圓
八、七六九圓	一二、二五五圓
二〇圓	一、七〇〇圓
——	三八一圓
——	一、四九七圓
計	一一、二六一圓
	二五、七一八圓

部落有財産	
土地價額	四一九、三三二圓
建物價額	一、二〇〇圓
計	四二〇、五三二圓
合計	
土地價額	五一二、二〇五圓
建物	一〇五、〇三六圓
小學校基本財産	
土地價額	九、七八九圓
其ノ他	——
計	九、七八九圓

濱だより

小名濱　魚市場調査

魚名	魚獲高	單價
鰹	二三四九本	八〇——九〇錢
入港數		
カツヲ船	一隻	
陸送物船	一口	

◇天氣豫報◇
小名濱氣象特報
今晩　北東風曇り
明日　北東の風概ね曇り
氣壓＝七百六十三粍九

好間古河炭礦の新試み
投票の指針
從業員達に

演說會を開き政見發表をなす

昨朝茨城縣魚瀨港、鶴ヶ壁角旗」をもつて示す
今橋長太郎の兩名が同港沖白—北の風　綠—東の風　時々曇
の烈風に煽られ、三隻　白青—晴時々雨　青—西の風　白綠—
だと云ふ、命に惠まれる　建物價額　一〇三、八三六圓　赤白—晴時々雪　赤白—
人である、同家は母一人、　其ノ他　——　赤綠—北東の風　赤綠—南東の風
妻子四人の六人家内、裕福　計　一八六、八三〇圓　赤青—南西の風
な暮の惠まれた家である。

本邦畫壇の耆宿、荒木十畝術員會員、大日本藝術普及先生は今回東北旅行の歸途會顧問の地位にあり揮毫料同好者の請を入れ玉川村大は左の如くである。
原小瀧鑛泉に十月二日頃より約一週間滯在することになり、同好者の揮毫に應する筈である。荒木先生の如き大家の面前揮毫は稀有の事であつて家寶として共道のものが大なる期待を掛けて居る、先生は現に帝國美

畫壇の雄
荒木十畝先生來る
東北旅行の歸途
小瀧鑛泉に約一週間滯在希望者の揮毫に應ず

一、紙本半折　貳百圓
一、絹本尺二　參百五拾圓
一、尺五　七百圓
一、尺八　一千圓

今日の
小名濱港内の
淀泊船

昨日から今朝にかけて小

常磐論壇

偶然ではない

偉くなり立場を作る人は、其處に偉くなる潜んだ努力と明哲なるひらめきがある筈である、他人が立場を作るを見て表面より批評して彼此皮相的觀察するは、觀察者の智的範圍に止まるもので、大体に於て批評者と同等程度のものでなければ正鵠を得たとは言ひいない所謂盲者の牛を評するに手の觸れた部分を以て全部を評する如く、田子健吉氏は石城部會よりの公認を辭退して黨平和の爲めに小野氏を推し而して自己の地盤迄も小野氏に提供し自らも應援辯士として山手方面に遊説する事を約した、其行爲丈けにて、自分は今頃田子氏の樣な麗しき窓氣の持主のある事に何とも言へない爽快なる氣分を滿喫し選擧美談として推賞して居つたが、計らずも福島市より公認され田子氏自身も鹿を逐ふ立場となつた、然るに田子氏は小野氏との約束を果すべく立遲れの自身を顧慮せざるものゝ如く今本郡山手方面の小野氏の應援辯士として熱烈なる小野氏推擧の獅子吼をなしつゝある、筆者は田子氏の義俠的意氣に打たれ、一面識ありと云ふ丈けにて親しく口咳接せざれど崇敬の念益々強く一般に腐敗せる政界に田子氏の如き義人あるを悅び、福島市に於ける田子氏の當選を神に祈願して本縣政界の一服の清涼劑たらしめたいと念ずるものである

御挨拶

社會的に多大の讃辭と御好評を博して居る石城中小商工互融會は小名濱方部の切なる勸説に依り今回小名濱町中島尾城寫眞館裏に小名濱方部事務所を設くる事になり、九月八日より一般事務を開始し致したから御承知の通り本會は最も理想的なる相互扶助機關であつて各位の好き相談相手でもあります、何卒御利用の程を御願して事務所開設の御挨拶を申上げる次第であります。

石城中小商工互融會
小名濱方部事務所
小名濱町中島尾城寫眞館裏
電話呼一〇四番

出張所の開設と準備

毎度多大の御引立に預り厚く御禮申上ます
昨年來種々準備に日を重ねて居りましたが大体手續を序しました、何卒本店同樣御引立の程幾位にも御願ひ申上ます
◎祝切　◎丁寧　◎配達迅速を期して
今後一段の勉強致します

船具　漁網　ロープ
ペンキ　塗料　各種
セメント　壁材一式
度量衡器、計量器
ゴム合羽とゴム靴一式

舍　鹽屋商店
小名濱町字古港二六
電話三十九番

煙草と鹽販賣
船具漁具各種
ペンキ塗料各種
度量衡器、計量器
ゴム合羽ゴム靴一式
油引合羽と附屬品
鹽屋商店出張所
小名濱築港大通り
水産試驗場正門前
電話壹六六番

内科・外科
小兒科
花柳病科
平川醫院
江名町　電話二六番

内科・外科
花柳病科
小兒科
會田醫院
院長　會田亮
小名濱町上横町

良品本位
學用品
和洋紙
卸商
魁文堂
平町才槌小路
電話三一三番
魁文堂郡山支店

吳服類は
樋口吳服店
小名濱町中島通り

大衆食堂
時代の生んだ
小名濱町中島通り
金時バー
電話十二番

技術流行型揃安價迅速に
御注文に應ずる
皇恩會
小松洋服店
平町才槌小路十二
小松正治

貴女の御家庭に御手不足は御座いませんか
本會を御利用下さいませ
本會の特長
看護婦及産婆の有資格にして最も老練なる看護婦を一般家政婦として派出致します
料金は極めて低廉です。
姙産婦の御家庭
御病人の付添
其他雜用
◆身元確實にして最も堅實なる婦人數名募集す
平町紺屋町二
上原家政婦會
電話二二番
會主産婆　上原通子

親切　KS　第一
船舶用電氣
各種發電機
各種蓄電池
捲替修理
各種電球
販賣
磐城小名濱町
スマヤ電氣部
ケーエス商會
店主　小濱敬太郎
電一五九

銘酒
「玉の井」
長瀬彰義釀造
石城郡玉川村

水産試驗場製罐詰
鰹鹽辛
鯛味噌
名所繪葉書
小名濱みやげ
小名濱古港入口
文屋百貨店

販捷　石敏　版確　活精
長瀬芳郎印刷所
磐城座入口
小名濱中島通り

齒科一般
口腔外科
森合齒科醫院
植田町電話七一
女中さん二名入用
十四才より
十八才迄

あやめだんご
肉となる
一串一錢
小名濱町橋のそば
ホテイヤ